



ID: 1444

科目名	特別活動の理論と方法【26年度生用】			コード			
英語表記							
担当教員名	小川 勤			年度	平成26年度		
基準年次	2年次	開講期	後期	単位数	2		
授業形態	講義・演習	授業形式		履修形態	教職		
授業概要							
特別活動の意義、目的、具体的内容を理解し、教科外の集団活動をとおして子どもたちに学ばせるべき事柄を理解する。また、活動計画を作成し、教師にとっても子どもにとっても魅力的な特別活動がどのようなものか、考える力を身につける。前半は講義形式で行ない、後半は、講義内容に基づいたグループワークを行なう。							
到達目標							
学習指導要領に沿って、特別活動の内容、目的が理解できる。教科外活動を通した子どもの個性の伸長や社会性の獲得の過程が理解できる。具体的な活動計画を作成することができる。							
授業計画							
第1回	オリエンテーション・「特別活動」の概要：特別活動が学校生活のどの部分を指すのか解説						
第2回	教科外活動の目的：教科外活動を通して子どもたちが何を学ぶのかを考える						
第3回	子どもと遊び：遊びを通して子どもたちがどのような成長をとげるのかを考える						
第4回	学級活動の内容と目的：学級活動の具体的内容やその目的について、学習指導要領にもとづいて学ぶ						
第5回	児童会(生徒会)活動の内容と目的：児童会(生徒会)活動の具体的内容やその目的について、学習指導要領にもとづいて学ぶ						
第6回	クラブ活動と部活動の内容と目的：クラブ活動と部活動の制度的違いを確認し、それぞれの具体的内容やその目的について、学習指導要領にもとづいて学ぶ						
第7回	学校行事の内容と目的：学校行事の具体的内容やその目的について、学習指導要領にもとづいて学ぶ						
第8回	子どもの権利、自治、自立と社会性の獲得：特別活動の具体的内容をおさえたいうえで、特別活動が子どもたちにつけさせたい自立心や社会性と、子どもの権利の問題とを捉え直す						
第9回	グループワーク① 特別活動に教師がどれだけ関与するか：子どもの自由を尊重する中で教師がどれだけ関わるべきか、各個人の考えを明らかにし、グループワークを行う						
第10回	グループワーク② 魅力的な特別活動とはどのようなものか：特別活動を魅力的にするにはどのような活動をするべきか、グループで活動案を作成する						
第11回	グループ活動③ 活動案の検証と再考：自分たちの考えた活動案について、他のグループの人から意見をもらい、改善点を考える						
第12回	グループ活動④ 活動案の魅力を伝えよう：活動案を全体にプレゼンテーションし、魅力を伝えるための準備をする						
第13回	発表①：グループワークの成果を発表し、他のグループの発表内容を評価する						
第14回	発表②：グループワークの成果を発表し、他のグループの発表内容を評価する						
第15回	講評とまとめ：グループワークの過程、発表内容について、教員からの講評を行い、特別活動の目的について確認する						
評価方法及び基準			評価項目と割合(%)				
評価方法：グループワークの成果ならびにレポート 評価基準：特別活動の目的、内容が的確に理解でき、子どもの成長過程とその意義が捉えられているかどうか			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
授業外学習			テキスト、教材				
			『小学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省				
参考書			受講生へのメッセージ				
講義中に適宜指示							
キーワード							